

# 2021 第10回村上春樹 国際シンポジウム

プログラム  
1日目・  
6/5 (土曜日)

## 村上春樹文学における「逸脱」(deviation)

会場 新型肺炎拡大のため、オンライン参加のみ  
進行形式 両会場ともオンラインによる参加可 (ビデオ会議システムとしてMS Teamsを利用)  
時間 2021年6月5日 (土)・6月6日 (日)

以下は全部台湾時間 (日本・韓国は台湾より1時間進んでいます。)

1日目・2021年6月5日 (土曜日)			
0920-0930	オンライン会議室の入室開始		
0930-0950	<b>開会式 online</b>	会場 オンライン会場A 開会挨拶 曾 秋桂 (淡江大学教授兼村上春樹研究センター長・日本語学部主任) 呉 萬寶 (淡江大学外国語学部学部長) 村嶋 郁代 (日本台湾交流協会台北事務所広報文化部長) 司 会 樋口 達郎 (淡江大学助理教授)	
0950-1000	休憩時間		
1000-1100	<b>基調講演 1 online</b>	会場 オンライン会場A 司 会 黄 翠娥 (輔仁大学教授) 題目 逸脱するメタファー —村上春樹のノによる修辞学— 講演者 中村 三春 (北海道大学教授)	
1100-1200	<b>基調講演 2 online</b>	会場 オンライン会場A 司 会 頼 錦雀 (東呉大学特聘教授) 題目 村上春樹の小説における《人格》と《キャラクター》の逸脱 —『騎士団長殺し』を中心に— 講演者 金水 敏 (大阪大学教授)	
1200-1300	昼食時間		
1300-1305	<b>セッション 1 online</b>	会場 オンライン会場A コメンテーター 范 淑文 (台湾大学教授) 曾 秋桂 (淡江大学教授)	<b>セッション 2 online</b>
1305-1325	創作パターンの「逸脱」から見た『一人称単数』の装置 —村上春樹の意識の、あるいは魂のずっと深い場所に目を向けて— 樋口 達郎 (淡江大学助理教授)	原作からの「逸脱」 —森泉岳土「蝨」(漫画)における〈削除〉の戦略— 萩原 桂子 (岡山理科大学教授)	会場 オンライン会場B コメンテーター 内田 康 (京都府立大学共同研究員) 山根 由美恵 (山口大学准教授 (特命))
1325-1345	「逸脱」する短歌 —村上春樹「石のまくらに」小考—	村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』における逸脱	
1345-1355	質疑応答	質疑応答	
1355-1400	休憩時間		
1400-1405	<b>セッション 3 online</b>	会場 オンライン会場A コメンテーター 林 慧君 (台湾大学教授) 頼 錦雀 (東呉大学特聘教授)	<b>セッション 4 online</b>
1405-1425	『約束された場所で underground 2』における逸脱 落合 由治 (淡江大学特聘教授)	映画批評から受ける靈感 —村上春樹『騎士団長殺し』と鈴木清順— 質疑応答 (1425-1430)	会場 オンライン会場B コメンテーター 林 立萍 (台湾大学教授) 藤城 孝輔 (岡山理科大学講師)
1425-1445	村上春樹作品における逸脱 —質的量的研究による探究—		
1445-1455	質疑応答		
1455-1505	休憩時間		
1505-1510	<b>セッション 5 online</b>	会場 オンライン会場A コメンテーター 周 玉慧 (中央研究院研究員) 范 淑文 (台湾大学教授)	<b>セッション 6 online</b>
1510-1530	村上春樹文学に逸脱している女性ら —漱石文学の女性の痕跡として見なせるか?— 余 盛延 (台北科技大学教授)	村上春樹のランニングと文学活動、ことば —スポーツ学、医学、生理学の視点から— 阿部 翔太 (広島大学博士課程後期)	会場 オンライン会場B コメンテーター 林 雪星 (東呉大学教授) 清水 泰生 (同志社大学嘱託講師)
1530-1550	Deviation from Nature, Humanity, and Normality: Dual Moons, Religious Aberration, and Parent-Child Discord in Haruki Murakami's IQ84	〈小説家〉からの逸脱 —ラジオDJ、あるいは音楽家としての村上春樹—	
1550-1600	質疑応答	質疑応答	

主催 淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語学学科  
共催 科技部・台湾日本語教育学会・台湾日本語学学会  
後援 日本台湾交流協会台北事務所

